

公表

事業所における自己評価総括表(児童発達支援)

○事業所名	すてっぴ		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 9日		2026年 2月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15人	(回答者数) 13人
○従業者評価実施期間	2026年 2月 9日		2026年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数) 4人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	対象を主に聴覚障害児に特化し、手話のできる職員を配置し手話言語の獲得や手話でのコミュニケーション環境を保障していること。	手話コミュニケーションが豊かになるような工夫(手話での絵本の読み聞かせや手話を使ったゲームなど)や視覚的な情報提供、情報伝達の徹底	職員の手話力の向上 子どもたちの手話習得や手話言語力の発達に関する研究・研修などの取り組み 手話のできる職員の採用
2	幼児(3歳児)~中学生まで年齢の幅のある子どもたちが一緒に活動することで、お互いに学びあえること。	年齢幅のある子どもたちが一緒に活動できるような工夫(ゲームの内容やルールの工夫など)、小さい子から見て大きい子がロールモデルとなるような場面を意識的に設定している。	さらに子ども同士が進んで助け合ったりできるような場面設定や活動内容、活動方法の工夫
3	自分でできることはなるべく自分でやるようにして、自主性・主体性を養うように工夫していること。	生活の流れが見てわかるような掲示物、活動の動線を視覚的に示したり、物の配置を工夫したりしていること。 たてわりのグループ活動や相談活動などを意識的に設定していること。	より効果的な活動内容の工夫 高学年の子どもがリーダー的な存在を担うことに対するモチベーションをあげる工夫

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スペースが手狭であること。	幼児の活動と小学生の学習と場所がかさなることがある。幼児で昼寝をする子どもや体調が悪くなった子どもが休む場所が狭い。建物の周囲は車の往来が激しく、外に出て活動することは難しい。	今よりもう少し広くて環境のよい場所があれば移りたい。
2	学校とのよりよい連携のあり方	ほとんどの子どもが奈良県立ろう学校幼稚部に通っており、ろう学校とは学期に1回の情報交換会やケース会議などをおこなっているが、もっと連携を密にする方法がないか模索している。	職員が定期的に学校を訪れて活動の見学やケース会議などをおこなうとともに、学校の先生が定期的に見学に来てもらえるようなシステムをつくりたい。
3	利用の申し込み方法について課題がある。	定員よりも利用希望者が多く、何割かの方は断らないといけない状態だが、ステップを利用することでろう学校に就学させやすくなる保護者の願いがある場合、できるかぎり対応したい。現行の申し込み方法(FAX先着順)にはいろいろご意見もあるが、なかなか他によい方法も見つからない。	最も望ましいのは受け入れ定員を増やすこと。諸条件をクリアする必要がある。すぐには難しいが、何とかその方向を目指したい。